

1 研究主題

伝え合う力（表現力，コミュニケーション力）の育成
—国語科の学習を中心に—

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

新学習指導要領では、「生きる力」をはぐくむために、「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむ」としている。また、そのために「言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童の言語活動を充実すること」と述べている。このことから、「生きる力」をはぐくむ上で、言語活動を充実させ、表現力を高めていくことは重要であると考えた。

(2) 学校教育目標から

本校の学校教育目標は、「心身ともに健康で、豊かな心を備え、創造的で実践力のある子どもを育成する。」である。この目標達成のため、「鍛錬の教育」、「感動の教育」、「創造の教育」を教育実践の柱として、「よく考え、進んで学習する子」(知)、「素直で、仲良く助け合う子」(徳)、「健康でたくましい子」(体)を目指し、日々の教育活動を行っている。そして、この「よく考え、進んで学習する子」(知)を育てるために「基礎・基本の確実な定着」と「コミュニケーション力・表現力の育成」を掲げ、小規模校という特性を生かした授業や各種表現活動に取り組んでいる。本主題を考える中で、これらの目標を達成するためには、言語活動を支える国語の力を研究の中心としてとらえ、「伝え合う力」を伸ばしていくことが必要であると考えた。

(3) 児童の実態から

本校は小規模校で、児童は全校的に交流している良さがある。しかし、大勢の前で話す機会が少なく、集会活動等での発表では、もじもじしてしまったり、はっきりと分かりやすく話せなかったりする場面が見られる。そこで、国語科の学習の中で「聞く」「話す」「話し合う」経験を積むことによって、より自信をもって主体的に伝え合うことができるようになると考え、本研究主題を設定した。

3 主題について

(1) 「表現力」とは

表現力とは、自分の内面にある思いや考えを、感覚的にとらえられる手段や方法で外面に表す力のことである。表現力が低いと、自分の中のイメージがうまく相手に伝わらず、逆に表現力が高いと、相手により正確に自分の思っていることが伝わることになる。相手とコミュニケーションを図っていく場合、ただ「伝える」ということではなく、しっかりと「伝わる」ように表現する力が必要となる。様々な表現する力があるが、国語科における表現力は、自分の伝えたいことを言語化する能力であると考えた。

(2) 「コミュニケーション能力」とは

コミュニケーション能力とは、言語及び非言語メッセージの交換により、互いに影響し合い、情報や思考、感情などを共有しつつ目的を遂行する力のことである。ここでは、自分の思いを伝えるという一方向の表現力だけでなく、聞く力や理解する力、相手を受容する力なども必要となる。相手の思いや考えも受け止め、考えを深めたり修正したりしながらさらに主体的に伝えていく双方向の表現力ともとらえられる。

(3) 「伝え合う力」とは

伝え合う力とは、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり、正確に理解したりする力のことである。つまり、相手に伝えよう、発信しようという思いと、相手を受け入れよう、理解しようとする思いを土台としながら、正確に言葉として伝える力、正確に受け止める力、伝え返す力を相互に繰り返す、双方向的に意志疎通していく力のことである。ここでは、単発のコミュニケーションで終わることなく、相互に関わり合いながら、目的に向けて高まり合うことが期待される。また、これらの活動を通して、さらによりよい人間関係も築いていくことができると考える。

4 研究の仮説

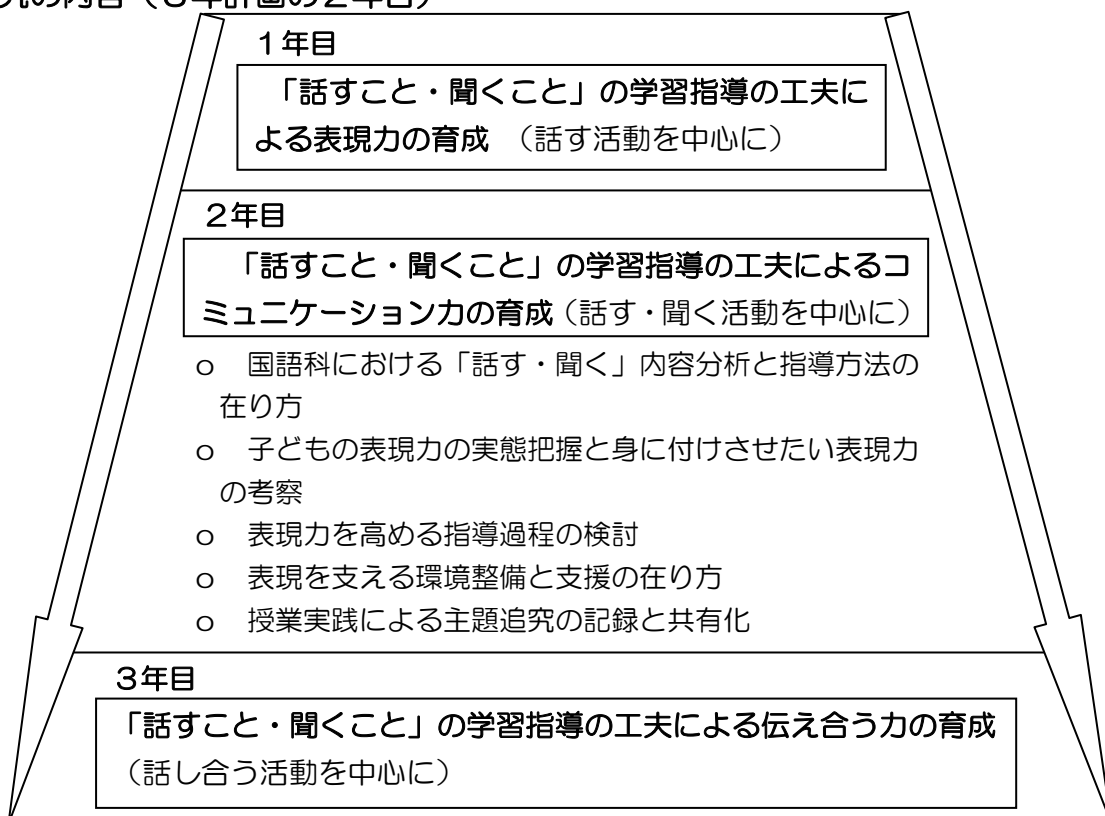
〈仮説1〉

国語科における「話す・聞く」学習指導を工夫し充実させれば、子どもの表現力は高まり、より確かなコミュニケーションが図れるようになるのではないかと。

〈仮説2〉

子どもの表現する力を適切に見取り、表現する環境や準備を整えれば、より自信をもって、主体的に表現し合うことができるようになるのではないかと。

5 研究の内容（3年計画の2年目）



6 研究の実際

(1) 「話すこと・聞くこと」の内容分析と指導方法の在り方

① 国語科「話すこと・聞くこと」の育てたい力と活動例の各学年における系統性

育てたい力		低 学 年	中 学 年	高 学 年
伝 え 合 う 力	表現力 (話すこと)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要なことから思い出す力。 ○ 相手に応じて話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話す力。 ○ 姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話す力。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモする力。 ○ 相手や目的に応じて話題や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話す力。 ○ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話す力。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関連付ける力。 ○ 目的や意図に応じて事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話す力。 ○ 共通語と方言との違いを理解し、必要に応じて共通語で話す力。
	コミュニケーション力 (聞くこと)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞く力。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話の中心に気を付けて聞き、質問したり感想を述べたりする力。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる力。
	話し合うこと	<ul style="list-style-type: none"> ○ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合う力。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合う力。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 互いの立場や意図をはっきりさせながら計画的に話し合う力。

下のような言語活動により、上の「伝え合う力（表現力，コミュニケーション力）」を育てていく。

	低 学 年	中 学 年	高 学 年
言 語 活 動 例	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりする。 ○ 尋ねたり応答したり、グループで話し合っただけで考えを一つにまとめたりする。 ○ 場面と合わせてあいさつをしたり必要なことについて身近な人と連絡をし合ったりする。 ○ 知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりする。 ○ 学級全体で話し合っただけで考えをまとめたり、意見を述べ合ったりする。 ○ 図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりする。 ○ 調べたことやまとめたことについて、討論などをする。 ○ 事物や人物を推薦したり、それを聞いたりする。

※ これらの言語活動は、具体的には、次の教科書教材の指導を通して各学年で行っていく。

② 話す・聞く」に関する教材一覧（光村）

（活動目標・指導目標は、「話す・聞く」に関するもののみ抜粋）

学年	教材名	言語活動（児童の活動目標）	身につけたい力（指導目標）
一 年	はる （話聞②）	絵を見て話す。応答する。	◎ 教師の問いに答えて、見つけたこと、思い出したこと、想像したことを発言することができる。
	あかるい こえて （話聞②）	場面に合わせて挨拶する。	◎ 相手に応じて、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて挨拶をすることができる。
	どうぞ よろしく （書②、話聞⑥）	場面に合わせて挨拶（自己紹介）する。	◎ 友達に知ってもらいたいことを考え、自己紹介することができる。
	ふたりで おはなし （話聞②、書①）	尋ねたり応答し合ったりする。	◎ 絵を見ながら、型に合わせて尋ねたいことを見つけて質問したり、質問に答えたりすることができる。
	わけを はなそう （話聞②）	感じ方とそのわけを話す。	◎ 身近なことや経験したことなどを思い出し、話題に沿って話すことができる。 ◎ 話題に沿って「わけ」を話すことができる。
	なんていったら いいのかな （話聞③）	場面に合わせてやり取りをする。	◎ 相手の場面に応じて話すことができる。 ◎ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話したり返したりすることができる。
	こんないしを みつけたよ （話聞④）	事物の説明をし、それを聞く。	◎ 必要な事柄を思い出して見て確かめたりし、姿勢や口形、声の大きさや強さなどに注意して順序立てて話すことができる。 ◎ 友達の話を興味をもって聞くことができる。
	ほんは ともだち （読①、話聞①）	読んだ本について、好きなところを紹介する。	○ 自分の気に入った部分を選び、友達に知らせたり、友達の紹介を聞いて、次に読む本を考えたりすることができる。
	おはなし きいて （話聞④）	経験したことを報告したり、それらを聞いて感想を述べたりする。	◎ 経験の中からみんなに話したいことを選び、話の順序を考えながら、丁寧な言葉を使って話すことができる。 ◎ 話の大事なことを落とさないように興味をもって聞くことができる。
	おみせやさん ごっこをしよう （書④、話聞④）	尋ねたり応答したりする。	◎ 客と店の人になって売り買いのやり取りをすることができる。
	これは、なんで しょう （話聞⑥）	尋ねたり応答したりする。事物の説明をする。	◎ 問題を作るために必要な事柄を集めることができる。 ◎ 分からないことや詳しく聞きたいことを尋ねたり、それに答えたりすることができる。
二 年	ともこさんは どこかな （話聞④）	迷子さがしゲームをする。必要なことについて身近な人と連絡し合う。	◎ 絵の内容に興味をもち、大事なことを聞き落とさないようにしながら、聞くことができる。 ○ 必要な事柄を選び、声の大きさや速さに注意して、はっきりと話すことができる。
	あったらいい な、こんなもの （話聞⑭）	尋ねたり応答したりする。自分の考えた事物の説明をしたり、説明を聞いて感想を述べたりする。	◎ 自分の考えた「物」について、相手に分かるように、話す事柄や順序を考え、声の大きさや速さなどに注意しながら、はっきりとした発音で、敬体で話すことができる。 ・ 大事なことを聞き落とさないようにしながら友達の話を聞き、感想を述べたり質問をしたりすることができる。 ○ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うことができる。
	友だちのこと、 知りたいな （書⑥、話聞②）	知りたいことを尋ね、紹介文を書く。	・ 書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うことができる。 ○ 大事なことを聞き落とさないようにしながら、興味をもって聞くことができる。

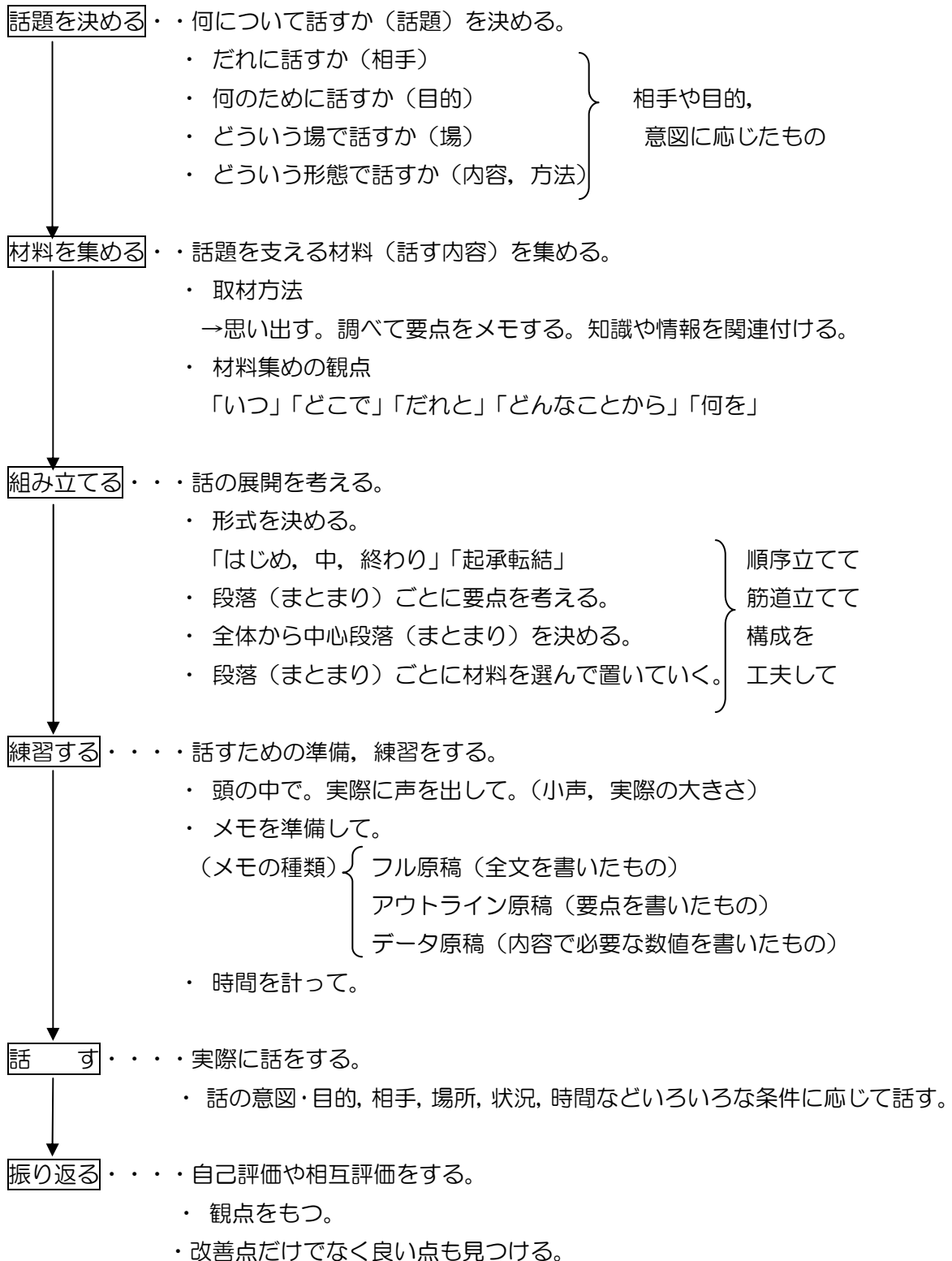
二 年	きみたちは、 「図書館たんて いだん」 (話聞③, 読③)	口頭で報告する。	○ 相手や場に応じ、話す事柄を順序立てて、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すことができる。
	みんなできめよう (話聞⑥)	グループで話し合っ て考えを一つにまとめる	◎ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うことができる。
三 年	よい聞き手になろう (話聞④)	出来事の報告や説明を したり、それを聞いて感想を 述べたり質問をしたりする。	◎ 話の中心に気をつけて聞き、質問したり感想を述べたりできる。 ◎ 日常生活から話題を決め、適切な言葉遣いで筋道を立てて話すことができる。
	本は友だち いろはにほへと (読③, 話聞③)	紹介したい本を取り上 げて説明する。 図表や絵、写真などを取 り上げて話す。	◎ 相手や目的に応じ、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すことができる。 ○ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すことができる。
	わたしたちの 学校行事 (話聞⑭)	学校行事を紹介する。 グループで話し合っ て考えをまとめる。	◎ 互いの考えの共通点や相違点を考えながら、説明する内容や方法について話し合うことができる。 ◎ 司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うことができる。 ◎ 準備したうえで、丁寧な言葉を用いるなど、適切な言葉遣いでインタビューをすることができる。 ○ 相手や目的に応じて、相手を見て間の取り方などに注意し、筋道を立てて話すことができる。
	しりょうから分 かったことを発 表しよう (話聞⑥)	図表や写真に基づき、話 をしたり、聞いたりする。	◎ 関心のあることなどから話題を決め、必要なことについて調べ、要点をまとめることができる。 ◎ 分かったこと、考えたことについて、筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すことができる。 ◎ 相手を見て、大事な言葉や部分を強調したり、間の取り方などに注意したりして話すことができる。
四 年	春のうた／いつ も気をつけよう ／つづけてみよ う (読①, 話聞①)	詩を音読する。	◎ 情景を想像し、リズムを楽しみながら工夫して音読することができる。 ○ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すことができる。
	よりよい学級会 をしよう (話聞④)	よりよい学級会のしかた について考え、学級全体で話 し合っ て考えをまとめる。	◎ 司会や提案者などの役割を理解し、目的に向かって、互いの考えの共通点や相違点を考えながら話し合うことができる。
	だれもがかかわ り合えるように ／発表のしかた (話聞⑮)	調査の報告をしたり、それ らを聞いて意見を述べたり する。	◎ 相手や目的に応じ、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、話し方の工夫を考えて話すことができる。 ○ 話の中心に気をつけて聞き、質問をしたり感想を述べたりすることができる。
	ごんぎつね (読⑨, 話聞②, 書③)	物語を読んで考えたこと を話し合う。	◎ 文章を読んで考えたことを発表し合い、互いの考えの共通点と相違点を考えながら話し合うとともに、一人一人の感じ方の違いに気づくことができる。 ○ 目的に応じて書くとともに、書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を伝え合うことができる。

四年	聞き取りメモの工夫 (話聞⑥)	大事なことをメモに取りながら聞く。	◎ 自分の目的と照らして、自分にとって大切な情報は何かを考えながら聞くことができる。 ○ 話を聞いて、要点をメモすることができる。
五年	新聞を読もう (話聞①, 読①)	編集のしかたや記事の書き方に注意して、新聞を読む。 資料を提示しながら話す。	・ 話題を決め、収集した知識や情報を関係づけて話すことができる。
	きいて、きいて、きいてみよう (話聞④)	インタビューをする。 インタビューを聞いて、報告する。	◎ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができる。 ○ 収集した知識や情報を関連づけ、目的や意図に応じて構成を工夫しながら、適切な言葉遣いで話すことができる。
	自分の考えをまとめて、討論をしよう 豊かな言葉の遣い手になるためには ・話し合うために大切な言葉 (話聞⑨, 書⑤)	自分の考えをまとめて、討論する。	◎ 話題を決めて、収集した知識や情報を関連づけ、互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うことができる。 ・ 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつことができる。
	ゆるやかにつながるインターネット 書き言葉と話し言葉 (読⑤, 書②, 話聞①)	意見を述べた文章を読み、自分の課題解決に生かす	◎ 筆者の考えを理解し、それに対する自分の考えをもち、発表し合って広げたり深めたりすることができる。 ◎ 話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。
	すいせんします (話聞⑥)	理由を明確にして、推薦したり、それを聞いたりする。	◎ 収集した知識や情報を関連づけて、目的や意図に応じた話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すことができる。 ○ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができる。
六年	学級討論会をしよう ・伝えにくいことを伝える (話聞⑦)	討論会をする。	◎ 討論会の話題に沿って、話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができる。 ◎ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うことができる。 ○ 討論会における言葉の使い方などについて関心をもつことができる。
	「平和」について考える 〈資料〉平和のとりでを築く (書⑧, 話聞⑥)	意見を主張するスピーチをする。	◎ 意見文をもとに、話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで意見を主張することができる。 ◎ 話し手の意図をとらえ、自分の意見と比べながら聞き、助言や提案をすることができる。 ○ 書き言葉と話し言葉の違いに気づくことができる。
	わたしと本森へ (書③, 読③, 話聞②)	自分と本との関わりについて、文章にまとめる「森へ」を薦める文章を書く。	・ 互いの読書体験を聞き合い、自分の体験や考えと比べるなどして考えをまとめることができる。
	今、わたしは、ぼくは (話聞⑥)	スピーチをする。	◎ 12歳の今思うことを伝えるために、話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すことができる。 ○ 話し手の思いを受け止めながら聞き、自分の思いや体験と比べるなどして感想をまとめることができる。

③ 「話すこと」についての手立て

(1) 一②の教材による学習や日常のスピーチなど「話す力」の向上を目指す活動において、基本的な取り組みの在り方について検討した。

◎「話す」までの流れをつかませる。



◎ 教科，教科外における取組みを出し合った。特別活動での手立て例をあげる。

【保健委員会：仲良し保健までの取組み】

平成23年7月1日 熱中症対策についての発表を行った。(保健委員6名)

委員会活動2回，朝の委員会活動3回，昼休み時間2回程を使って練習を行った。

仲良し保健までの取組み	工夫した点・気をつけた点
<ul style="list-style-type: none"> ○ 6/6の仲良し保健が終わってすぐに次(7/1)の仲良し保健の準備に取りかかる。朝の委員会活動で，7/1に行う仲良し保健についての説明を行う。 ○ 6月は熱中症患者が多かったこともあったので熱中症をテーマにした理由を説明し，仲良し保健で発表する意義を共通理解させた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 早めに取り組み，余裕をもたせた。 ○ 仲良し保健で，他の児童に伝えたいことは何かを意識してほしかったので，すぐに練習に入るのではなく，理解の場を設けた。
<ul style="list-style-type: none"> ○ ショート漫画を使用して役を自分たちで決めさせ，一度内容の確認を全員で行う。 ○ シナリオを渡し，自分の役の台詞に目を通させ，わからない言葉や漢字などの確認をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 興味を持たせるために，配役を自分たちで決めさせた。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 全員で読み合わせを行う。 (初めて読み合わせした時は，全員読みが速く，感情がこもっていない棒読みだった。) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前回の発表では，声の大きさ・読むスピード・言葉の詰まりが気になったので，この3つを重点的に練習を行った。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 練習を重ねるにつれて，3つのポイントを意識しながら読めるようになってきた。 <p style="margin-left: 20px;">＜3つのポイント＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 声の大きさ ・ 読むスピード ・ 言葉のつまり 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 声の大きさは，体育館にいるつもりで出させた。 ○ 読む速度は，「，」は1呼吸おいて，「。」は2呼吸おいて，ということを繰り返し行った。 発表の聞き手には1年生～6年生がいるが，1年生が聞きやすいようにゆっくり読むなど低学年を意識した指導を行った。 ○ 言葉の詰まりの原因としては，早口，言葉の意味を理解していない，漢字が読めないなどがあったので，言葉の詰まりがある児童には個別で指導を行った。
<p>—発表当日—</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 緊張しながらも，何回も練習した成果が現れたのか，堂々と発表することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ぎりぎりまで，全員で3つのポイントを確認した。リラックスして，楽しんでするように声かけをしつつ，プレッシャーを与えないように気をつけた。
<p>—発表後—</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 言葉が詰まるところも多少あったが，声の大きさや速度，感情のこもった読みができていたことを賞賛した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 達成感を感じてもらうため，良かった点を伝え，改善すべき点は，次の委員会活動で反省を行った。

(2) 子どもの表現力の実態把握と身に付けさせたい表現力の考察

① 実態調査結果（平成 22 年 9 月実施，数字は人数）

○ 「話す」ことについて

(1)	人前で話すことは好きですか。 好き（15），どちらかという好き（15），どちらかという嫌い（31），嫌い（7）
(2)	好きな理由は何ですか。（記述式回答） 楽しいから（12），うれしいから（8），目立つから（2） 話をするのが好きだから（2），自分の意見が正しいかどうか分かるから（1） いろいろと話せる（1），気持ちが良いから（1），自分の意見を人に伝えられる（1） おしゃべりだから（1），おもしろいから（1），はずかしいと思わないから（1）
(3)	嫌いな理由は何ですか。（記述式回答） 恥ずかしいから（26），間違っているかも知れない（4），つまらない（2） 言いたいことが言えない（1），間違うと変になる（1），きらい（1） 間違えたら笑われそう（1），失敗したらいや（1），人前では話せない（1）
(4)	話をするときに，気をつけていることはどんなことですか。（記述式回答） はきはきと元気よく話す（29），ことばづかいに気をつける（12） わかりやすく話す（5），大きい声で話す（4），間違えないように話す（4） 順序よく話す（2），ゆっくり話す（2）

○ 「聞く」ことについて

(1)	友だちの意見や発表を聞くことは好きですか。 好き（39），どちらかという好き（24），どちらかという嫌い（1），嫌い（1）
(2)	好きな理由は何ですか。（記述式回答） 知らないことを知ることができる（17），聞くのが楽しい（13） 友だちの話が聞ける（8），すごいなあと思う（5），おもしろいから（2） 友だちの意見と自分の意見のちがいがわかる（2），正しい答えがわかる（1） 人の意見を聞いて自分の意見がまとまるから（1），人の気持ちがわかる（1） 聞くことは大事だから（1），勉強になる（1）
(3)	嫌いな理由は何ですか。（記述式回答） めんどうだから（2），意味がわからないときがあるから（1） 姿勢が悪くなるから（1）
(4)	話を聞くときに，気をつけていることはどんなことですか。（記述式回答） 最後まで聞く（25），正しい姿勢で聞く（22），目を見て聞く（10） しっかり聞く（7），静かに聞く（7），話をしている人に体を向ける（6） 手遊びをしないで聞く（5）

② 考察

「話すことに」については，半数以上の児童が好きとは思っていないことが分かる。話すことが好きな児童は，話すこと自体を楽しく，うれしいと答えているのに対し，好きでないか答えている児童の多くが，「恥ずかしい」「間違っているかもしれない」という対人的な感情に原因をもっている。逆を言えば，「間違っても良い」という安心感や，「間違えないだけの練習をした」という自信などがあれば，話すことに対する抵抗感が減ると予想される。また，話す時

に気を付けていることは、「元気よく」「大きな声」など表現の仕方に目が向いていて、「分かりやすく」「順序よく」など話の内容面に目がいていないことが分かる。相手意識をもたせ、思いの伝わる話し方を経験させていく中で、内容面についても向上していくことが望ましい。つまり、相手に分かりやすい内容を熟考し、練習をしたり、評価されたりすることによって、自信をもって話せる経験を重ねることが必要であると考ええる。

「聞くこと」については、ほとんどの児童が好きだと答えている。好きな理由としても相手の意見を知ることに関心・感心をもっており、友達との交流を望んでいる児童の実態が分かる。しかし、聞く時に気を付けていることの多くが態度面であることから、相手の話している事柄や、自分の意見との相違点など内容面への意識は乏しい。これは「話すこと」にも見られた傾向であり、自分が話す時に内容を良く考えていくことができれば、聞く時にも相手の内容を考えて聞くようになると考えられる。また、その逆も有り、相互に意識させながら実践していくことが必要である。

(3) 表現力を高める指導過程の検討

① 国語科の学習過程と言語活動を引き出す学習形態

過 程	考 え ら れ る 学 習 形 態		
	教師と児童	児童一人	児童同士
つ か む	○ 一斉学習	○ 個別学習	
み と お す	○ 一斉学習		
ふ か め る	○ (個別指導) ○ (適切な助言・指導)	○ 個別学習 →	○ ペア学習 ○ グループ学習 ↓ ○ 学級全体
ま と め る	○ 一斉学習	○ 個別学習	

※ 領域や単元によって変更する場合もある。

(4) 表現を支える環境整備と支援の在り方

① 声のものさし

「声のものさし」を作製し、教室前面に掲示した。

- ・ 0 (小さい声で) 1 (ふつうの声で) 2 (大きな声で) 3 (元気いっぱいの声で) 4

② 話す、聞くポイント

- ・ 聞き名人「あ・い・う・え・お」
 - あ・・・相手の目を見て
 - い・・・いい(良い)姿勢で
 - う・・・うなずきながら
 - え・・・笑顔で
 - お・・・終りまで
- ・ 話し名人「か・き・く・け・こ」
 - か・・・簡単な文章で
 - き・・・聞こえる声で
 - く・・・口を大きく開けて
 - け・・・決して急がず
 - こ・・・言葉づかいに気を付けて

7 実践授業から

※ 第1回 6月14日 1年国語 教材 なんていったらいいのかな(3/14) (光村1年・上)

(1) 本時の目標

- ① 場面に応じた言葉を進んで考えようとする。(関心・意欲・態度)
- ② 互いの話を集中して聞き、相手や場面に応じて会話することができる。(話す・聞く)
- ③ 言葉には気持ちを伝え合う働きがあることに気づくことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

(2) 本時の指導にあたって

まず「つかむ・みとおす」段階では、会話するときにはっきりとした発語ができるための手立てとしてみんなで「あいうえおのうた」を読み、楽しい雰囲気をつくりたい。前時の学習で見つけた「うれしい言葉」を振り返りながら、友だちとの関わり方も振り返らせたい。

「ふかめる」では、前時までの学習をもとに、新たな場面についても「どんな言葉をかけたら、お互い気持ち良いか、相手に喜んでもらえるか。」について考えさせたい。友だちと実際にやり取りをする活動を取り入れながら、楽しく会話の練習をさせたい。

言われてうれしかった言葉、友だちが喜んでいたと思う言葉を発表させる活動をとおして、お互いが気持ちよくなるためのいろいろな言葉のかけ方があることをとらえさせたい。

「まとめる」では、学習したことを振り返りながら、気持ちよく言葉のやり取りをするには、どんな表情で話したらよいかについても考えさせたい。今後、人との関わりの中で、相手の立場を考え、表情や言い方にも気をつけながら、思いやりのある言葉遣いができることが大切であることをおさえたい。

(3) 実際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす	1 □の形に気をつけて「あいうえおのうた」を読む。 2 前時の学習を振り返る。 ・言われてうれしかった言葉を振り返る。 3 本時の学習のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> どんなことばをいったらよいかかんがえよう。 </div>	5	○ 発語をよりスムーズにできるよう、□をしっかり開いて読むように声かけをする。緊張をほぐし、楽しい雰囲気を作る。 ○ 前時に学習した「言われてうれしかった言葉」を提示する。 ○ 本時のめあてを把握させるとともに、本時の学習の進め方について説明し、学習への意欲を持たせる。

<p>ふかめる</p>	<p>4 場面に応じてどんな言葉をかけたらよいか考える。</p> <p>(1) 友だちに言われてうれしかった言葉を発表する。</p> <p>(2) 場面カードの中の人物にどのような言葉をかけたらよいか考え、会話のやり取りを練習する。</p> <p>① 担任と子どもたち ③ 子どもたちどうし二人組 ④ 練習したやり取りを発表する。</p> <p>(3) やり取りをしてみて感じたことを発表し合う。 ・言われてうれしかった言葉や相手が喜んでいたと思う言葉は何ですか。</p>	<p>35</p>	<p>○ 前時までの学習をもとに、自分の生活の中で言われてうれしかった言葉を思い出させる。</p> <p>○ 前時までの学習で出てきた事例に加え、さらに新しい場面についても考えることをおさえる。</p> <p>○ 実際に担任と子どもたちで会話のやり取りをしながら二人組での練習の仕方を理解させる。</p> <p>○ 相手の話をしっかり聞くことの大切さについても確認する。</p> <p>○ 同じ場面でもいろいろな言葉のかけ方があることを確認する。</p> <p>○ 自分から言葉かけができたり、その言葉に対して応答できたりしたことを認め、自信を持たせたい。</p> <p>○ 他のグループの会話の良さにも気付かせ、相手の気持ちを考えながら、会話できたことをお互い賞賛しあう。</p>
<p>ま と め る</p>	<p>5 本時を振り返り、学習したことを今後生かしていくことが大切であることを確認する。</p>	<p>5</p>	<p>○ 場面によってかける言葉がいろいろあることや、相手の気持ちを考えながら表情や言い方にも気をつけて話すことが大切であることをおさえたい。</p> <p>○ 今日やり取りしたような会話が実際の生活の中でも実践していけるよう意欲を持たせる。</p>

(4) 授業研究から (◎良かった点, ○改善点, ☆指導助言)

- ◎ 入学後2ヶ月の段階だが、挙手の様子や聞く態度など学習のしつけがしっかりとできていた。表現を支える環境として大事な部分である。
- ◎ 場面カードを自分たちで選ぶことで意欲的に言葉かけの練習に取り組んでいた。また、二人組での練習の間、各組に担任が適時支援に回っていたので子どもたちも安心して活動ができていた。
- 鉛筆を持つ場面が授業の終盤だけだったので、机を無くし、思い切り活動ができるように場の設定を工夫する。
- 1枚目の場面カードの内容で練習が十分できた組は、練習時間内であれば別の場面カードも選んで良いなど個々に応じた柔軟な計画にする。
- ☆ 相手意識をさらにもたせて（言い方、表情まで意識して）対話の仕方を練習させたい。
- ☆ 学年別指導事項を明らかにしながら、各学年での力を積み重ねるよう研究を進めるとよい。

※ 第2回 10月24日

4年国語 単元 調べて発表しよう だれもがかかわり合えるように(13/15)

〈資料〉手と心で読む 〈コラム〉発表の仕方 (光村4年・下)

(1) 本時の目標

- ① 聞き手を引きつける発表の工夫を考え、練習することができる。(話す・聞く)
- ② よりよい発表になるように、友だちの発表を聞いてアドバイスすることができる。(話す・聞く)

(2) 本時の指導にあたって

前時の学習では、聞き手の興味を引くような発表になるためには、どのような事に気をつければよいかを話し合い、一人で発表する練習を行っている。本時は、グループ内で互いに発表を聞き合い、アドバイスし合ってよりよい発表に練り上げていく。グループ活動となるので、アドバイスの観点がずれることがないように次のような手立てを講じ指導にあたりたい。

まず、よい発表の観点について、前時の活動を想起させ再確認させる。その際は、話し手の工夫についてだけでなく聞き手のマナーについても確認するようにする。

次に、グループでの練習をする。グループは、調べた内容がなるべく同じにならないようなグループを教師の方で組んでおき、聞き手が初めて知る内容が多くなるようにする。話し手は、自分の発表のめあてを持って取り組ませる。それを発表前に伝える事で、聞き手のアドバイスのポイントが明確になるようにする。聞き手は、アドバイスカードに書き込みながら、「話し手が一番伝えたいことは何か」ということに気をつけて聞くようにさせる。できるだけ話を聞くことに集中できるように、アドバイスカードはチェック項目に○を付ける程度の簡潔なものにする。発表を聞いた後に、発表内容の感想も書き込ませ、アドバイスカードをもとに話し手にアドバイスができるようにする。

そして、グループの中でどんな意見がでたかを発表し、本時の活動が振り返れるようにする。

教師は、各グループを回って指導し、必要に応じてよい発表の手本を見せたり、アドバイスをしたりしてよりよい発表になるようにしたい。

(3) 実際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ(◎評価)
つかむ	1 前時の課題を想起し、学習課題を確認する。 聞き手を引きつける発表になるように、グループで発表の練習をしよう。		・ 前時までの学習を想起させ、学習内容を理解させるとともに、本時の課題を確認させる。

<p>み と お す</p>	<p>2 聞き手を引きつける話し方や聞き手のマナーを確かめる。 (話し手)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 間をとる ・ 言いたいことを強く言う ・ 資料を指さしながら(資料提示のタイミング) ・ 聞き手を見ながら <p>(聞き手)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ うなずいたり、首を傾げたりするなど、反応を示しながら聞く。 ○ 意見や感想、質問などをメモしながら聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 内容について ・ 構成について (順序よく) ・ 表現について (呼びかけがある・聞き手に考えさせる・一文が長すぎないなど) 	<p>8</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞き手の興味を引くような発表の仕方を確かめる。同時によく伝わる話し方の工夫や聞く人の注意点を提示し確認しながら練習に臨めるようにする。
<p>ふ か め る</p>	<p>3 グループ内で聞き合い、アドバイスし合ってよりよい発表にする。 【司会】それでは、始めます。発表とアドバイスの時間は、1人7分間です。発表の順番は、～です。では、私から発表します。 【発表】「これから私の発表をはじめます。」(礼)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の発表のめあてを言ってから始める。 「私のめあては、・・・」 <p>《発表》</p> <p>「これで私の発表を終わります。」 「意見や感想がある人はいませんか。」</p> <p>(礼)</p> <p>【司会】次は、〇〇さんお願いします。</p>	<p>30</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明はできるだけ短くし、アドバイスの時間をしっかり確保できるようにする。 ・ 事前に発表する順序を決めておき、練習がスムーズに進められるようにする。 ・ 発表する前に自分のめあても発表することで、目的意識や相手意識を持てるようにする。 ・ 話し方の工夫や資料についてのアドバイスだけでなく、内容面や構成についてもアドバイスし合えるようにする。 ・ チェック項目を書き入れた、アドバイスカードを活用する。 ◎ 発表会に向け、話し方や出だしを工夫しながら練習することができる。(練習の様子・発表のために準備したメモや資料) ◎ 友だちの発表を聞いてアドバイスをし合うことができる。(発表・アドバイスカード) ・ アドバイスしてもらったことを確認する時間を確保し、次時の発表に生かせるようにする。

ま と め る	4 グループで出た意見を出し合い、本時の学習を振り返る。 5 次時の活動の確認をする。	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループで出たアドバイスを発表し、本時の学習の振り返りとする。 ・ チェックカードに本時の感想を書かせ、自分の発表や聞き方について自己評価させる。 ・ 次時は、クラス全体で発表することを告げる。
------------------	--	---	---

(4) 授業研究から (◎良かった点, ○改善点, ☆指導助言)

- ◎ 前時までの取組みで発表原稿がしっかりと出来上がっていたので、本時の発表練習に自信をもって取り組んでいた。発表原稿を作る上では、教科書の例や補助CD, 教師撮影の発表の様子ビデオ等により、良い発表モデルをイメージできていたことが良い支援となった。また、実態に応じて発表構成例をあげた原稿枠を数種類用意していたことも、児童が原稿を作る時の手助けとなった。
- ◎ 見通しをもって学習に取り組んでいて、グループでの練習も司会を中心にスムーズに行っていた。アドバイスカードの支援により視点をもって聞くことができ、友達に助言する時や後で本人が確かめる時に役立っていた。
- 発表の仕方に対するアドバイスが多かったが、内容面に対しても意識をもたせたい。
- フル原稿での発表だったので、どうしても原稿から目が離せなくなり、視線を上げ、相手を見て発表することが難しかった。発表自体は良くできていたので、さらに練習を積むことで視線を上げ、表情や相手を意識して話せるようにしたい。また、学年が上がれば、徐々にアウトライン原稿にしていくことにも慣れさせたい。
- ☆ 本時は子どもたちが楽しく発表していた。発表が好きということは、学級経営が基本となる。
- ☆ 他の人へのアドバイスは自分自身にも生かされていく。聞く人は常に質問や意見を言うという意識をもって聞くようにしたい。
- ☆ 形から入ることも大事。各教科で発表モデルを示し、繰り返し発表経験を重ねていくことが大切である。